



木質ボイラ稼働

設置ホテルで式典

あわら協
三国

あわら、坂井両市で県
産間伐材などを使った熱
エネルギー利用を推進す
る、あわら三国木質バイ
オマスエネルギー事業協

議会は8日、坂井市の三
国観光ホテルに設置した
木質バイオマスボイラー

本格稼働を始めた木質バイオマスボイラー

8日、坂井市の三国観光ホ
テル

本格稼働を始めた木質バイオマスボイラー

方所に建設した建屋に、
全国で2例目となる出
力120kWのオーストリ
ア製ボイラーを2基導入
した。坂井森林組合の生
産する杉間伐材チップ
を使用し、同ホテル東館

の給湯やロビーなどの
暖房の熱源として活用。
年間約12万Lの重油削
減などを想定している。

総事業費は約8千万円
で、ボイラーの稼働や監

視、燃料供給は同協議会
が担う。

式典には関係者ら約
50人が出席。同協議会の

土谷秀靖理事長が「今後

も木質バイオマスを普
及させ、持続可能エネル
ギーの循環型社会形成

に努めていきたい」とあ

いさつ。坂井市の北川

貞二副市長らと熱供給

格稼働する予定。

同協議会では現在、あ
わら市の温泉旅館「美松」
でも出力300kWボイラ
ーの設置を計画して
おり、4月下旬までに本

格稼働する予定。

(児島崇之)

地産地消ボイラー稼働

三国観光ホテル 木質チップ燃料

坂井地区で伐採された木材を燃料にして、地産地消でのエネルギー循環を目指す木質チップボイラの稼働式が八日、坂井市三国町緑ヶ丘四丁目の三国観光ホテルで開かれた。関係者約五十人が参加し、新たなエネルギー循環システムのスタートを祝った。

ボイラー施設はホテル敷地内にあり、マルツ電波（福井市）や坂井森林組合、地区内の旅館やホテル

ル、観光業など約三十団体でつくる「あわら三国もりバイオマス」（あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会）が設置した。鉄骨造り平屋で七十平方㍍。半地下式でボイラ二基を備えている。

燃料は主に坂井地区内のスギの間伐材を一年間乾燥させ、一トントン角のチップとしたものを坂井森林組合から定期的に搬入する。チップを燃やして発生した

（本田優子）

協議会によると、チップの使用量は年間三百五十四百㌧。A重油に換算すると百二十二㌧（ロトルップ相当）に相当し、二酸化炭素（CO₂）の削減量は三百五十、四百㌧が見込まれる。ホテル全体で必要な熱量の約三分の一がまかなわれる。

（本田優子）



エネルギーの地産地消を目的に新設されたボイラー施設＝坂井市三国町緑ヶ丘4丁目で